

働く女性の活躍を支援

第2期「パワーアップ実践塾」開講

日本生産性本部ダイバーシティ推進室は6日、「ワーキングウーマン・パワーアップ会議」の協力を得て、女性社員の活躍推進に向けた行動計画の策定と実践を支援する「第2期パワーアップ実践塾」を東京・丸の内内の日本工業倶楽部で開講し、企業の人事・総務の責任者が参加した。

冒頭、北浦正行・同本部参事（ワークライフゲループ長）は、「当本部の大きな運動の柱の一つがダイバーシティの推進だ。パワーアップ実践塾は昨年初めて開催したが、今回はその実績を踏まえ、さらに進化をさせていきたい」とあいさつした。

同会議代表幹事の岩田喜美枝・資生堂代表取締役副社長が、「パワーアップ実践塾はセミナーではなく塾だ。講師と塾生の間に対話型の関係をつくっていきなさい。塾生同士がお互いから学び合うこともセミナーとは違う。思い切ってお互いの会社の情報開示をしていただき、経験から学ぶことが重要だ。『実践塾』なので、学びながら社内実践している。理想的には、塾のスピードに合わせて社内女性の活躍推進の活動を進めてい



パワーアップ実践塾で問題提起を行う岩田塾長

ただきたい」と述べた。岩田氏は、女性活躍推進

は、企業経営にとって、人材の無駄遣いをしないという観点からも、ダイバーシティマネジメントの観点からも必要だと主張した上で、女性の活躍推進は、社内の一構造改革」活動であ

り、それにふさわしい組織や行動計画を作成し、実行することが重要だと強調した。

岩田氏はさらに、企業における女性活躍の度合いは、「女性が子どもができたら退職するのが当たり前」の第1段階、「女性はかろうじて仕事と子育てを両立している」第2段階、「子どもが無にかかわらず、女性がキャリアアップし続ける」第3段階の三つの段階に分けることができると指摘した上で、自社の事例を紹介しながら、第2段階か

ら第3段階に進むためには、従業員の働き方の見直しと、女性の管理職・専門職を育成するためのポジション・アクションに取り組むことが必要だと述べた。同本部では企業の活力維持のためにも女性社員の活用や管理職登用への取り組みが急務だとの認識のもと、仕事意欲に燃える女性と企業を応援する民間運動である「ワーキングウーマ

ン・パワーアップ会議」を2008年9月に発足させている。パワーアップ実践塾の参加者は今後、「ワーキングウーマン・パワーアップ会議」推進委員などの支援を受けながら、各社の女性社員の活躍推進に向けた行動計画の策定と実践を行っていく。

実践塾の問い合わせは、同本部社会労働部、03(3409)1122まで。